

芦屋市立認定こども園・保育所

ICT×教育・保育＝

なにがええっ？

令和3年度ICT活用実践・考察集 vol.1



市立認定こども園・保育所
ICT活用検討委員会

「ICTの活用は、子どもの21世紀に 生きる力の基礎を育てる！」

唐突ですが、そうなんです。と、いいますのも、

- 昨今、社会においてICTが飛躍的に重要性を増大してきていることから、本市の市立保育所・認定こども園では数年にわたって、子ども達への教育・保育でのICT活用を行ってきました。

その結果、ICTを教育・保育の中で、その特性を活かし、活用することは、子どもの21世紀に生きる力の基礎を育てると結論付けることができました。

そして、令和3年度から本格的に取り組むこととし、その活動を取りまとめることとしたものです。

この冊子でICTの活用が有効であることに加えまして、次のこともお伝えできればと思っております。

- ・ どうやってICTを使うの？
- ・ 子どものどういった成長に役立つの？
- ・ 子ども達がICTを使いこなせるの？うまく関われるの？

- お読みいただく前に次の2点について確認をさせてください。

- ① 保育所などでの「教育の形」
- ② 本市での「ICT活用」

です。

1点目は、「保育所などでの「教育の形」」です。
それは、

① 認定こども園・保育所では、「遊び・体験」を通して学ぶ

という形になります。

このため、本誌の実践事例をご覧いただくと、小学校の授業のように机に座って国語や算数を勉強しているというイメージと違って、「遊んでいる」、「何をしているか分からない」というように感じられるかもしれませんが、「遊んでいる＝教育も行っている。」と理解していただけたらと思います。

なお、認定こども園・保育所での教育内容は、国において定められた「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」で定められています。

(参考：「国立教育政策研究所 幼児教育研究センター 「幼児教育研究センター発足記念 平成 28 年度教育研究公開シンポジウム 「幼児教育の質の向上を支える研究と研修の在り方を考える～幼児教育 140 年の歴史から未来を考える～」」資料 今後の幼児教育とは

(https://www.nier.go.jp/06_jigyuu/symposium/sympo_h28/pdf/symposium_report.pdf)

(「保育所保育指針」などを解説したものではありませんが、幼児教育が何を重視しているか、子どもがどのように学んでいくことを想定しているのかなどを含め説明されています。)

○ 次に、「本市での「ICT活用」」です。

現時点で「ICT活用」というと、園運営上の業務改善・業務効率化というのが一般的ですが、本誌では、

② 子どもがタブレットを操作するなど、直接 ICT 環境に触れ・関わり、その特性を活かした学びを行う教育・保育活動

になります。

このような活用方法は、次のようなご指摘・ご質問を時折お受けします。

- ・ 子どもにタブレットは早い
- ・ 子どもは体・五感を使ってこそ
- ・ 子どもをデジタル漬けにするの？
- ・ 子どもにひらがな・計算を勉強させるの？

こういったご指摘は、

- ・ 「従来の保育活動」と「ICTを活用した保育活動」のバランス
- ・ 「保育所等でのタブレットの使い方」は、「日常生活や小学校での使い方」と異なる。

を、本誌の実践事例を確認いただくことで、解消いただけたと思います。

前置きが長くなりましたが、子ども達がタブレットなどと自然体に関わり、楽しみながら ICT に関わり、成長していく様子をご覧ください。

最後になりましたが、ICTの活用に当たり、丁寧なご指導、機材のご提供をいただきました園田学園女子大学 堀田教授 様, 株式会社 スマートエデュケーション 様, 株式会社グッド・グリーン 様, 社会福祉法人上名福祉会 つるみね保育園 杉本園長 様に感謝申し上げます。

令和 4 年 3 月 3 1 日

目次

はじめに

I C T活用に係る目的・理由・方針	・ ・ ・	5
I C T活用実践・考察	・ ・ ・	7
芦屋市職員 I C T活用研修会 「就学前教育・保育における I C Tの活用」	・ ・ ・	1 9
芦屋市立認定こども園・保育所 I C T活用検討委員会協議事項骨子	・ ・ ・	2 3
公開保育案	・ ・ ・	2 5

おわりに

1 目的

I C Tの特性を活かした教育・保育活動を行い、21世紀に生きる力の基礎を育む。

2 理由

市立保育所・認定こども園では、数年前から就学前の教育・保育にI C Tを保育上のツールとしての活用方法や効果について探ってきた。

その理由は、次のような状況を踏まえたものである。

- ・ 人の生涯に対する就学前の教育・保育が与えるインパクトの大きさが経済学からの評価でも示され、その重要性の再認識
- ・ 次のような、社会状況の急速かつ大きな変化への市立保育所・認定こども園としての教育上の対応
 - ・ G I G Aスクール構想による小学校以降の学習環境
 - ・ 社会における国際性
 - ・ 1つの文脈に対する複数解釈性
 - ・ I C Tの重要性の高まり

こういった状況の中で特に身近で顕著にその重要性が増している「I C T」について、教育・保育上の関わりを検討する必要があると考え、「I C Tを保育活動上の1つの道具」という観点を中心にI C Tの活用に取り組んできたものである。

I C Tの活用・検討を行った結果、I C Tには保育ツールとして従来のものにならない特徴・特性があり、今後育みたい様々な力の育成に有効なツールであるとの結論づけを行った。

I C Tの保育ツールとしての特徴・特性としては、

- ・ 距離的な課題をなくすることができる。
- ・ 身近な環境では、体験できない・難しいことについても体験できる。
- ・ 複数人との活動・活動結果の共有が行いやすい。
- ・ 繰り返し・修正・工夫などが行いやすい。

などが上げられる。

これらの特徴・特性は、就学前教育・保育における3つの資質能力の育成に適性が高いと判断し、今回の目標であるI C Tを活用した教育・保育を行い、21世紀に生きる力の基礎を育むものとしたものである。

3 方針

活動は、原則的に対象児童を5歳児（市立保育所・認定こども園は、6施設あり、利用している子どもは、令和3年4月1日時点128人）とした。

具体的な活動内容については、6つの施設があり、施設ごとで状況が異なることから、それぞれの状況により判断することとしたが、子どもがICT環境に直接触れる保育活動を展開し、楽しい体験を通じ、従来にない学びやより興味関心を深める体験につなげるものとし、それらを前提として次の要素については、できる限り取り入れるように努めることとした。

- ・ 協働性
- ・ 表現
- ・ 広い意味でのICTリテラシー

これらは、いずれも現在までICTを活用する中でICTを活用することにより、効率的に又は、特徴的に学びにつながるものとして整理したものである。

これらのねらいを実現するため、ICTの活用について、次のこととした。

- ・ タブレットを活用する場合は、1台を複数人で利用すること。
- ・ ICTを活用した「表現」につながる活動を含むこと。
- ・ ICTを活用する中で、子ども達にICTの活用に関わるルールに触れること。

以上、これらの方針により各活動を行った。

なお、活動において活用したアプリケーションの概要は次のとおりである。

製品名	会社名	製品概要
ピッケのつくるえほん	株式会社 グッド・グリーンフ	タブレットで絵本を作成するもの（音声吹込みや、紙への出力も可）。
K i t S「きつつ」	株式会社 スマートエデュケーション	様々な機能をもったアプリケーションの複合体 本誌では、それらの内、「アートポン！」（子どもたちが紙に描いた絵や工作が、スクリーン内で自由に動き出す。）を活用

以 上

友達と認め合い，表現する力を育てる

～アプリ「ピッケのつくるえほん」の活用～

芦屋市立精道こども園 5歳児

1 活動のねらい

- 『ピッケのつくるえほん』を使って遊ぶことで，創意工夫する力を育てる。
- 友達と話し合い，絵本を作り上げていくなかで，かかわりを深める。
- 友達の絵本作りに興味をもち，関心を広げる。

2 I C Tを活用する意図

- タブレットを使っていく楽しさを知り，主体的に I C Tを遊びに取り入れる経験を重ねる。
- アプリを利用することで絵を描く技量に関係なく，思いや考えを形にしやすく，何度もやり直しができる点から自由な発想が生まれやすい。
- タブレットを活用することで幼児期から I C Tリテラシーを身につけ，就学に繋げる。



3 活用機器

タブレット プロジェクター アプリ（「ピッケのつくるえほん」（p 6 参照））

4 実践

10月14日 「ピッケの絵本作り楽しいな」

2人で1台のタブレットを使って遊びを進める。友達とイラストを探したり，イメージを伝え合ったりして作っていかうとする。幼児が自ら互いの気持ちや思いに気付けるよう見守りながら，考え合える機会をつくった。

10月18日 「本当の絵本みたいになったよ」



絵本の内容のイメージが決まってきたことで，友達と相談しながら一緒にタブレットを使ってお話作りをする。話し合う場を設け，ひとつのペアが『どんぐり みつけた』と題名をつけたことを紹介すると，「本当の絵本みたい」と周りの友達が話し，題名作りをすることに興味をもつ様子が見られた。

10月22日 「教えてもらったから分かるよ」

絵本作りを進めている途中，「キラキラ(装飾)出したいけど，どうしたらいいかわからないな」とつぶやくA児。その言葉を聞いて「分かるよ，ここをこうするの」と違うグループの幼児が来て，A児のタブレットで教えてくれ，A児は「できた！ありがとう」と喜ぶ。しばらくして違うグループB児が「ここキラキラにしたいんだ

けどな…」と話している。するとA児が近くに行って、「僕教えてもらったから知っているよ」と声を掛け、「やってみて。そうそう！」とB児が自分で触って作れるようにかかわる。

1 1月4日 「絵本の部屋みたい」

プロジェクターを使って、絵本の上映会をする。初めの画面が実際の絵本棚のようになっていて驚きの声が聞かれた。友達の絵本を観て感じたことを伝え合う姿が見られた。来年度に向けて継続した取り組みになるよう、4歳児にも観てもらえる機会をつくった。

《保育者の読み取りと援助》

- 友達と絵本を作る楽しさを味わってほしいと願い、クラス全員で話し合った。友達の絵本を見合うことで、友達の思いに互いに気づき、さらに興味や関心が深まり意欲的になった。
- 幼児が困ったことがあった時もすぐに保育者が解決するのではなく、幼児同士のかかわりに繋がるように援助した。A児は、自分がしてもらった体験から、B児が自分で操作できるようにと考えていることがわかった。
- 実際に出来上がった絵本を見合うことで、お話のおもしろさや色使いの美しさに気づき、子どもたち同士、認め合う機会になった。



5 考察

絵本作りを通して子ども一人ひとりが試行錯誤し、そこから友達への意思を伝達する姿が見られた。そのことから、他者の思考に触れ人間関係を育み、創造する力を培うと考えられる。

やまにがえなつ

- 今期の年間指導計画の2期、3期のねらいのひとつである『表現活動の充実』では、体験（自然物に触れて遊ぶ）からイメージを膨らませて描画や制作をする、身体表現をする、歌を歌う等の活動を保育に取り入れている。アプリを利用した絵本作りも表現活動の一つになり、『思考力、判断力、表現力等の基礎』が育つ。



- タブレットを使つての絵本作りは、視覚的に楽しめ、音声も録音できることから子どもにとって分かりやすいことで、友達との関わりが生まれた。そこから学びに向かう力や人間性を培っていく。
- 就学前教育保育からICT教育を取り入れることで、将来に向けICTリテラシーや情報モラルを身につける基礎を育むことに繋がる。

「にしくらコレクション」

～広がる世界観とつながる自信・達成感～

芦屋市立西蔵こども園 5歳児

1 活動のねらい

- 調べたり，制作をしたりする中で，友達と協力する力が育つ
- 世界の国々について興味や関心が広がる
- 調べたことや考えたことを相手に分かるように工夫して伝える力が育つ
- 自分達で調べたことからイメージを広げた衣装を制作し，西蔵コレクションで発表し合う達成感を味わうことで自己肯定感に繋げる

2 ICTを活用する意図

- 「認定こども園」という限られた施設環境を超えて，新しい知識や発見，出会いを友達と共有
- 簡単に写真を写すことができ，即座に共有できる良さの活用

3 活用機器

タブレット プロジェクター



4 実践

6月上旬 「国旗見つけ」

打出商店街や新浜保育所につばめを見に出かけた。つばめの事を絵本や図鑑で調べると，つばめが冬の間「マレーシア」で過ごし日本にやってくるのが分かった。すると，「マレーシア」ってどこにあるのかな？と疑問にもち，地球儀や地図を使って世界の国を調べ始めた。そして，それぞれの国には国旗があることが分かったので，園内にある国旗をタブレットで撮影する活動に取り組んだ。活動を通して，身近にたくさんの国旗を見つけることが出来た。活動の最後には，見つけた国旗をスクリーンに映し出し，「何に表記されていたか」や国名をグループ毎にプレゼンテーションした。その後，家庭で見つけた国旗や国名，言葉や生活など，それぞれが興味をもったことを調べて朝の会で発表し合う活動に広がっていった。



6月23日 「にしくらコレクション（ファッションショー）」

国旗探しに続いて，自分のイメージした国旗や自分の国の衣装を制作した。様々な素材を用意し，一人ひとりがイメ



ーじしたものが実現できるようにすると、友だちと工夫を認め合ったり、アドバイスをし合ったりする姿が見られる。衣装を身に着け、他クラスに披露した「にしくらコレクション（ファッションショー）」では、事前にファッションショーの映像を見てイメージを共有し、当日はタブレットを使って撮影するカメラマン役も経験する。自分の衣装をアピールして映してもらおうとしたり、その友達の姿を上手く写してあげようとしていたりする姿が見られた。



6月24日 「プレゼンテーション」

ファッションショーで撮り合った写真をスクリーンに映し、学年の友達に自分の衣装をプレゼンテーションする。それぞれが発表の順番が回ってくることを期待し、発表が苦手な子どもも映像を指さして言葉を添えながら友達に伝えることが出来た。

《保育者の読み取りと援助》

友達と一緒にタブレットを使って撮影するという新しい体験を楽しんだことが、世界の国調べでの好奇心や探求心の深まりになった。プレゼンテーションでは、イメージ力や発信力に自信がもちにくい子どもも、ICTを利用することで苦手を意識せず参加し、伝え合う楽しさを感じる事が出来た。ICTを使った活動でもICT以外での活動でも、「友達と学びを共有し、思いを共感し合う事で自信につなげる」「子ども自身が手ごたえを感じる経験を大切にする」ことでさらに自信を深めていった。

5 考察

ICTの活用には、タブレットのアプリそのものを楽しむ活動と、タブレットの機能を使って実体験をより豊かにするツールとして楽しむ活動がある。今回の「世界の国々」というテーマは後者の特性を活かすことができる活動であると考えた。

今回の活動を通して『見つけたい』『知らせたい』『見てもらいたい』と主体性の育ちを感じた。タブレットで撮影しあうことで、その写真をすぐに翌日のプレゼンテーションに活かすことができ、発表が苦手な子どもも自信を持って発表することができていた。そういった子どもの姿から「遊び」を基本とする就学前教育でも、学びを深め、自己表現や友達との関わりを広げていくツールの一つとして、ICTはより効果的な活用ができると考えた。

やえにがえなっつ

- 実体験で感じた疑問を絵本や地図だけでなくICTを使うことにより、知識が広がる。
- 友達とICTを利用しイメージを共有することで、経験したことのないファッションショーを自分たちで実現する達成感を感じ、自己肯定感につながる。

アゲハ蝶

～ICT×実体験で育つ 子どもの知的好奇心～

芦屋市立岩園保育所 4歳児

1 活動のねらい

- ファイバースコープで拡大したアゲハ蝶を見て、新たな発見を喜び、探求心をもつ
- プロジェクターで友達と同時に見ることで気づきや疑問を一緒に考え、伝え合う力を育む

2 ICTを活用する意図

- 子どもたちみんなで同時に細かな様子を観察することで、共通体験の土台をつくる。
- 拡大し、繰り返して見ることで、たくさんの気づきや問いが生まれ言葉による伝え合いが活発になり探求心が増す。

3 活用機器

タブレット プロジェクター ファイバースコープ

4 実践



6月上旬 「蝶のストロー、初めて見えたね！」

クラスで飼育しているアオムシがアゲハ蝶になり、ファイバースコープを通して観察する。スクリーンに映ると歓声が上がり、拍手している。

蝶の口を見て、「くるくるってなってる」「ストローみたい」とそれぞれが気づいたことを話していると、口が伸び縮みし始めた。

「動いた!」「すごい!」と次々に言葉が出てきて、子どもたち同士で知らせ合っていた。



《保育者の読み取りと援助》

クラスで初めてICT機器を使っの保育だったので、“スクリーンに映ることが面白い”，“拡大して見るのが面白い”といった様子だった。蝶の顔を映すと、目や口が分かっていたのは普段から興味をもって図鑑を見ていたからだ。蝶の口が伸び縮みする様子を実際に見ることができ、子どもたちにとって感動的な体験となった。その瞬間を捉えることで感動を友達にも伝えたい、友達と話したいという姿につながった。

7月中旬 「この黒い粉は何だろう？」

サナギから羽化したアゲハ蝶が飼育ケースの中で飛び回るうちに、羽の尾状突起がとれてしまう。子どもたちの手のひらにそれをのせると「手が黒くなった」と粉がついた指をこすり合わせたり、友達に見せたりする。その後、とれた尾状突起をファイバースコープで拡大してみると、黒い粉が大きく映る。「ごまみたい」「つぶつぶしてるね」と感じたことを友達と話している。

《保育者の読み取りと援助》

実物に触れ感触を知る機会となる様に、偶然とれた尾状突起を子どもの手にのせた。それが手についた鱗粉の存在を不思議に思い興味をもつことに繋がった。また、ファイバースコープを通して肉眼では見えないところが見え、興味が深まることになった。



後日、粉（鱗粉）がどうしてあるのかを考え合う。

10月中旬 人と自然の博物館 高瀬先生と実験「鱗粉って何のためにあるの？」

蝶の羽（鱗粉）をファイバースコープで拡大して見ると、「みかんの中（のつぶつぶ）みたい」「雨の形や」「お花みたい」などと思ったことを話す。

高瀬先生に「どうしてこんなにたくさんあるんだと思う？」と聞かれると「虫に食べられないように飛ぶから」「ひらひらって上手に飛ぶため」などと答えている。その後実際に、蝶のはく製の羽の上にスポイトで水を垂らす実験をする。「なんで（水）を吸わないのかな？」「（水の玉が）転がった！」と蝶の羽をじっと見たり、首をかしげたりしている。



《保育者の読み取りと援助》

博物館の高瀬先生の高倍率のファイバースコープを使い、より細かな鱗粉の様子を見ることができたので、7月にクラスで考え合った時とは違う、新しい考えが出てきた。

はく製の下に敷いたペーパーは水を吸うのに、羽は水を吸わない様子を見て、羽のことをより不思議に思い、新たな問いが生まれている。

直接、高瀬先生と会えた経験が、11月に越冬するサナギに対して生まれた質問をリモートで行うことにつながる。三田市の博物館とリアルタイムにやりとりできたことで遠くにいる高瀬先生のことを身近に感じながら、サナギが冬を越せる場所を考え合い、命の尊さを感じる機会となった。



5 考察

子どもたちは主体的な生き物との関わりの中で、たくさんの感動を伴う実体験をしている。実体験の中で不思議だと感じた事象が、ICTを使うことでより明確化され、友達との感動共有が強まることに繋がった。今回、タイムリーに、細部を同時に見ることが可能な「ファイバースコープ」を用いた活動から、子どもたちが友達の興味や発見に共感し、さらに協同的に探求しようとする姿に発展していくと感じた。ICT×実体験によって子どもたちの知的好奇心が刺激され、学びに向かう力が育まれると考える。今後も子どもたちの好奇心を探求心に変えるICTの活用方法を取り入れていきたい。

学びが生まれる

- 実体験や普段知ることができなかった不思議だと思うことをICTや図鑑を使うことによって、よく観察して確かめ、そして考える科学の芽や茎になる力が育つ。
- 専門家と繋がりICTを活用して、問いの提示や実験によって、さらに興味や探求心が湧き、学びに向かう力がつく。

たつのこたろうプレゼンテーション会

～見たい・知りたい・伝えたい意欲を育てる～

芦屋市立打出保育所 5歳児

1 活動のねらい

- 絵本『たつのこたろう』について調べてきた用紙をタブレットで撮影し、プレゼンテーションの準備を自分ですることで、就学を見据えたICT活動への好奇心を育む。
- タブレットに取り込んだ情報の中から伝えたいポイントを拡大して見られるようにすることで、探求心を深めて会話に繋げ、コミュニケーション力を育む。

2 ICTを活用する意図

- 就学に向けて、タブレットを扱う際のルールを知り、実際に扱い方に慣れていく。
- 調べてきた用紙をスクリーンの大画面で映すことで、伝えたい部分を明確にする。また、友達の発表内容に耳を傾けるだけではなく、関心を深められるようにする。

3 活用機器

タブレット、プロジェクター、スクリーン

4 実践

10月28日 「みんなに伝えたい！」

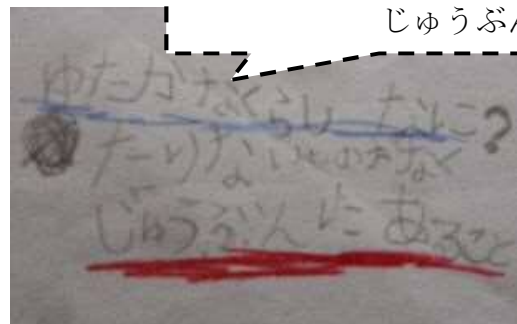
F児やK児は家庭で調べてきた疑問を「ママと一緒に調べたよ、発表したい」と話しており達成感が感じられる。子どもの記し方で見にくいことも考えられたため、色別で分かるように質問は青色、分かったことは赤色の下線を引く。個々にタブレットを使い、紙全体を撮影しながらプレゼンテーションへの準備を進めた。撮影する際に、紙全体が写るようにとタブレットを動かしながら撮り方に工夫が見られるようになる。

《保育者の読み取りと援助》

活動目標であるプレゼンテーション会をすることを事前に伝えることで、見通しをもって準備に取り組む力が育つのだと感じた。スクリーンに映りやすい色や発表する時の話し方等も子どもからのアイデアが多く生まれ、伝えたい気持ちが育っていると感じる。撮影は、経験を重ねることでタップして満足するだけではなく見やすい工夫を考えているが、真上から撮ることでさらに見やすくなることを伝え、タブレットの使用方法を獲得できるようにした。



ゆたかなくらしってなに？
…たりないものがなく、
じゅうぶんにある



10月29日 「どうして？なんだろう？面白い！不思議！」

- ① K児とA児が岩魚について家庭で調べてきたことを発表した。絵が描かれていることで子どもの関心は高かったが、本物を知ってほしいと思い岩魚の写真をスクリーンに写す。関心はより高まり、絵と比べる子どももいる。種類は何かと問いかけると、「鯖かな」と知っている魚を発言し、春に取り組んだ魚の鱗について学んだことから考える姿が見られた。N児は「鮭」と答え、正解であることに驚きながら嬉しそうに聴いていた。
- ② S児は貧しい生活が背景になっている物語の内容から“豊かな暮らし”について考えていた。「十分にあって足りないものがないこと」との発言から、自分たちの生活の中でなくなると困るものについて考える時間を作る。個々によって感じるものが違うために、友達の意見に興味深く聞き入る姿が見られた。質問の意図が分からないM児はスクリーンの文字を何度も読み返す姿があった。

《保育者の読み取りと援助》

内容が友達と違う子どもは、自分が疑問に思ったことや調べてきたことはこれで良いのだろうかと不安な表情だったが、ありのままの姿を認めることで伝えようとする姿勢が堂々とし以前とは変化が見られた。頭の中にあったものを言葉にすることで知識となり全体で共有できたのではないかと考える。M児のように聞き取りだけでは理解が難しい場合に、視覚的なものが近くにあることで理解しやすい環境があることに気づかされた。



5 考察

自分で考えたことや書き出したことをタブレットで撮影しプレゼンテーションに向けて準備する一連の活動において、発表内容から質問に答えるだけではなく活動を通して感じたことや新たな知識を伝える姿から、技術の獲得や考える力、発信する力の育みに繋がっていると考える。また、伝えたい内容が拡大されて視覚的にも動きがあることで、注目しやすい環境ができると発見した。この発見からICTを活用することで、何を伝えたいのか、知りたいのかを明確にするために効果的になり、見てほしい・見せたい・見たい気持ちが高まる1つのきっかけになっている。またそこから生まれる疑問を保育者自身が見逃さずに取り上げ投げかけることで、友達と話し合い考え合う機会が増え、学びがより深まると考える。

学びがさつ

- タブレットやスクリーンの扱いを提示されるのではなく、実際に触れながら扱い方に慣れていくことで、ICT機器を使用する上でのルールや知識を身につけることができる。
- スクリーンに映し出され、見てほしいところや見たいところが明確になることで、発見や考えたことを積極的に発言する力や友達の話に耳を傾ける集中力が養われる。
- 絵本の内容の理解が深まることで、表現遊びの際に新たな発想や想像力の幅が広がる。

ねえ、聞いて！伝えたい気持ちが育つICT

芦屋市立緑保育所 5歳児

1 活動のねらい

- タブレットの使い方や、使用するときの約束事を知る
- 子ども同士が自分の意見を伝え合い認めあうことで、達成感や自己肯定感の育ちに繋がるようにする

2 ICTを活用する意図

- プロジェクターを使用し、多数の子どもが共有する。
- 子どもたち自身がタブレットを扱い、就学に向けてICT保育に取り組む

3 活用機器

タブレット、プロジェクター



4 実践

緑保育所は大規模改修の為、10月～2月（予定）まで、旧新浜保育所へ移転することとなった。新しい場所での生活が始まるのが楽しみな反面、慣れ親しんだ園舎を離れることへの不安も感じられた。そこで、5歳児が引っ越し前に園舎を見に行き、他クラスの友達に伝える機会をもつことにした。

9月30日 「新しい保育所を見てみたい！」

「運動会が終わったら、新浜保育所に引っ越しするんだよね？」と話す子ども達に、保育者から「保育所の代表として新浜保育所に行ってみない？」と提案する。すると歓声を上げて喜び、「どんなところだろう？」「早く行きたい！」と期待を膨らませていた。年少児に教えてあげたいという思いも強く、2人組になり、どの部屋の紹介を担当するかを話し合いで決定した。

《保育者の読み取り》

保育所を引っ越しするという経験はなかなかできないことであり、非常に楽しみにしている様子が感じられた。また見たい、知りたいという意欲と共に、自分たちだけでなく、保育所のみんなにも伝えたいという気持ちに、年長児としての自覚を感じた。

10月6日 「みんなに何を教えてあげようかな？」

新浜保育所に到着すると、「わぁ、緑保育所より大きくて楽しそう！」思い思いに感想を述べる。2人組になり、紹介したい場所の撮影を始める。タブレットを始めて使用する子どももあり、戸惑う姿が見られたが、「こうしたらいいんじゃない？」「やってみよう」と、2人で試行錯誤しながら撮影していた。「ロッカーの数は何個かな？」「ここ

の壁の色は、他のお部屋とは少し違う。」等、気付いたことを友達同士で話し合いながら、自分が伝えたいことが分かるように、何度も写真を撮り直す姿があった

《保育者の読み取りと援助》

初めて訪れる場所、自分達だけという特別感に、気持ちが高揚していたが、みんなの代表で来ているという使命感ももっており、どんな写真を撮れば、言いたいことが伝わるだろうと工夫する姿が見られた。初めてタブレットを使用し、思うような写真が撮れない子どもには、個別に撮り方を伝える。

10月8日 「新浜保育所って、こんなところだよ」



自分達で撮影した画像をスクリーンに映し、「ここが〇〇組のお部屋です。お部屋には大きな鏡がありました。」
「お庭にはお池があり、魚もたくさんいます」等、特徴を添えて紹介する。助詞などの使い方がうまくいかず言葉に詰まる姿も見られたが、周りの友達に助けをもらいながら発表を続ける。友達と一緒にやり遂げたことで、達成感を感じた様子だった。

《保育者の読み取りと援助》

自分達で考えて撮影したからこそ、伝えたいことは明確だった。子ども同士で考えたり、補い合ったりできるよう、保育者が見守ることも必要だと感じた。それでも今回の活動を通じて、他クラスの子どもや保育者から感謝や感心の言葉をもらったことで、子どもたちは達成感を感じ、自信につながったと考えられる。

5 考察

5歳児が、実際に見ることができない年少児達に、新しい保育所のことを分かりやすく伝えたいという目的を達成するためには、ICTは非常に有効的なツールであった。これまであまりICTに触れる経験がなかったこともあり、ただ触れて楽しい、その目新しさだけで終わってしまわぬよう、今回の実践においては、探求心を深める保育ツールと理解し、使用する前後の活動にも、保育者が明確なねらいをもち、継続した教育保育を行うことが必要だと意識した。

これまで培ってきた教育保育に上手くICTを取り入れ、新たな可能性を探っていきたい。

やみぐるまっ?

- タブレットを扱う際の約束を知り、使用方法を知る。
- 自分の思いや経験したことを友達と相談しながら表現する経験を通して、考え工夫する力、協調性が育つ。
- 年少児に伝えることで、年長児としての自覚、また達成感や自己肯定の育ちに繋がる。

I C Tで深まる友だちとのつながり

芦屋市立大東保育所 4歳児

1 活動のねらい

- I C Tを活用し友だちとの交流を深め他者との関係を認識する
- 友だちの作品に興味をもち思った事、感じた事を言葉で伝え合う力を養う

2 I C Tを活用する意図

- 集中力が続きにくい児も動きや音の出るアプリを使用することで集中して最後まで活動に参加しやすくなる
- アプリを使って全員の作品を見合うことで、自分の作品だけでなく他者の作品の色々な発想や表現方法に触れることができる
- 子ども同士で写真を撮り合いタブレットがもつ楽しさを体験できる



3 活用機器

デジタルカメラ、タブレット、プロジェクター、アプリ（K i t S「きつつ」（アートボン!）（p 6 参照））

4 実践

10月18日 「友だちに写真を撮ってもらおう」

アプリを使う準備段階として、子どもたち同士でタブレットを使用し写真を撮り合った。タブレットの扱いには慣れていて「こっち向いて」「はい、チーズ」など互いに声を掛け合う姿が見られた。また、「もう一回撮りたい!」と保育者に撮り直すための方法を聞く子どももいた。写真を撮ることが楽しくなり、近くの花や他のクラスの子どもを撮る姿もあった。撮った写真を拡大する方法を伝えると、大きくなった写真を見て笑い合い楽しそうにしていた。子どもたちが互いを撮り合ったことで、自然な表情が撮れた。

《保育者の読み取りと援助》

保育所でタブレットを使用する初めての機会だったため、約束や扱い方を子どもたちに伝えた。子どもたち同士で写真を撮りあったことで、保育者が撮る写真より自然な表情が撮れたのではないかと感じた。また、普段関りの少ない子ども同士で撮影し合うように意識したことで、交流が広がった。タブレット自体の扱いには慣れていたが、熱中するあまりタブレットの扱い方が雑になってしまったり、操作の仕方が分からなかったりする時は援助するようにした。

10月22日 「わたしが踊ってる!」

前日に仮装を考えて描き準備をした。絵本や写真を見て「私はパンプキン!」「きゅうけつこうもりになるんだ」と翌日を楽しみに自分でイメージをもって描く姿があった。

当日は「今日はハロウィンパーティーだね」とワクワクしている子どもたちの様子がみら

れた。アプリを起動し、スクリーンに自分の姿が映ると歓声があがった。「〇〇君あそこにいるよ!」「〇〇ちゃんもいる!」等、友だちを見つけてそれを伝える姿が見られた。アプリ内でパーティーが始まると「踊ってる!」「めっちゃ動いてるな」と笑いながら思ったこと、感じたことを発言する姿があった。その後一人ずつお気に入りのポイントや好きなところを発表する。「恥ずかしい」と言いながら顔を隠す子ども、お気に入りのポイントがたくさんある子どもなど様々だったが、全員が人前で発表することができた。この活動後には実際に作ってみたいという声が聞かれ、後日5歳児と一緒に衣装を作りハロウィンパーティーを行った。

《保育者の読み取りと援助》

期待がもてるよう、前日に活動の内容を伝えた。自分や友達がスクリーンに映ったことをきっかけに子どもたち同士の会話が広がり、関わりがうまれた。自分の作品が動くことに嬉しさや喜びを感じることができ、前に出ると自然と伝えたいと思えることに繋がったのではないかな。アプリ内で自分の写真が動いたことで普段集中して活動に参加することに消極的な子どもも、視覚的な効果から興味を得やすかったのではないかな。



5 考察

今回の活動では、当初は予想していなかった自己肯定感の育ちが見られた。子どもが興味をもっていた「ハロウィン」を題材に、自分が作った作品がスクリーンの中で動くという非日常感を味わえるアートポン!を使用した事で全員が集中して意欲的に活動に参加できた。その中で、個々に感じた事を言葉にして友達と伝え合い、自分の作品を友達や保育者に認めてもらえた経験ができたことが要因でないかと考える。

I C Tを活用する際は、必ず実体験と共に保育を行っている。アートポンを使って仮装のイメージを紙に描き具体的に表現したことで、実際に身につけて遊んでみたいという気持ちが芽生え、活動が深まるきっかけとなった。今後も、I C Tを保育に取り入れて満足するのではなく、I C Tを活用し、子どもたちの興味を広げたり、活動を深めたりするための保育の一つのツールとして子どもたちの学びにつなげたい。

やにがえまつ

- 子ども同士で写真を撮影し合うことで、友達とのコミュニケーションが生まれ、友達との関わりが深まる。また、友だちとの交流関係も広がる。
- 自分の作品が友だちの作品と繋がる映像をみて、友達の作品にも興味をもつことができ、友だち同士で具体的に認め合ったり、共感したり、その事を言葉で伝え合う力が育つ。
- 自分の作品が動く喜びを感じて、思いや感じたことを伝えたい気持ちに繋がった。そのことがプレゼンテーション力の芽生えを育む。

日時：令和 3 年 8 月 2 日

講師：園田学園女子大学 人間教育学部 児童教育学科 堀田 博史 教授

1 はじめに

- ・ 今は保育士免許を取るにも I C T が必修の時代になっている。
- ・ 現場としてはプラスか？効果があるのかどうか？と不安に感じるのが当たり前だと思う。
→ 保育の目的、ねらいが「自己肯定感を高める」なら良いのではないか。
- ・ 幼児期に I C T 機器に触れることについて早すぎるか？という疑問について。
→ 活動のひとつであり、仕組みがあることを学んでいる。
- ・ ねらいとマッチングしているかどうかが大切である。

2 今小学校で起きていること

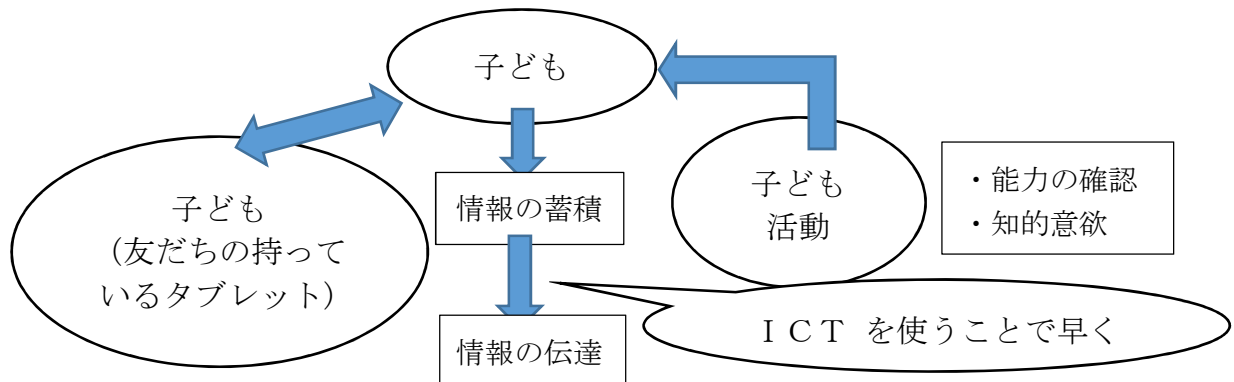
- ・ G I G A スクール構想により、一人一台のタブレットが普及する
→ いつでもどこでも学習できる環境が実現した。
それによって個別最適化された学び（入院中の子、不登校の子、病気の子も学べる環境）が整った。
一般の子にとっても、学びを個性化できるようになった。
- ・ 小学校では「検索する」という機能は使っていない。データをクラウドに保存し、土日に「自分が一番と思う写真」を撮ってきて月曜日に発表する使い方をしている。
- ・ 端末に保存（クラウド）という行為が標準化している。共有が楽になり、パソコンよりもセキュリティ面でも安全である。
- ・ 小中学校で大切にしていること 1. 言語能力 2. 情報活用能力 3. 問題発見力、問題解決能力
→ 9 年間で教科をまたいでこの 3 つを育成する。
- ・ 今は学校内と学校間で格差が大きくなっている。先生個人のスキルに自信がないからと、活用しにくい現状や、使い始める学年に差があるが、先生の得手不得手は関係ない。1, 2 年生もタブレットを使うことが文科省で決められている。操作は子どもに勝てない。「一緒にしよう」という姿勢でいい。

3 保育での I C T 活用について

- ・ 園務での I C T（働き方改革）
- ・ 保育の質向上での I C T（ドキュメンテーション等、伝わりやすさを意識）
- ・ 遊びを豊かにする I C T（子どもの探求心をくすぐる活用）
問いをもたせること、興味、関心を誘発することが大切である。
知的好奇心を求めることを大切にする！「なぜ？どうして？」と子どもが好奇心を持てば、遊びが楽しくなる。→ 発展させ、高めていく。知的な気づきへ高めていく言動力になるのか。
自分自身へ問題意識が大切である。積極的参加活動の誘発、発展させたりする環境構成を工夫する。

4 ICTの活用に関心を抱かせる、必要感をもたせる

- ・ 発達の捉え方
 - ▶ 好奇心、必要感がなければ自ら遊んだり学んだりしない。
 - ▶ 大人がルールを引きすぎると好奇心や必要感が薄れてしまう
 - ▶ 応答性の関係が大切
- ・ 双方向性のある環境がもたらすもの



学んだことをもとに、応用する力を大切にする！→問題解決に向けた学びの過程が実現できているか？

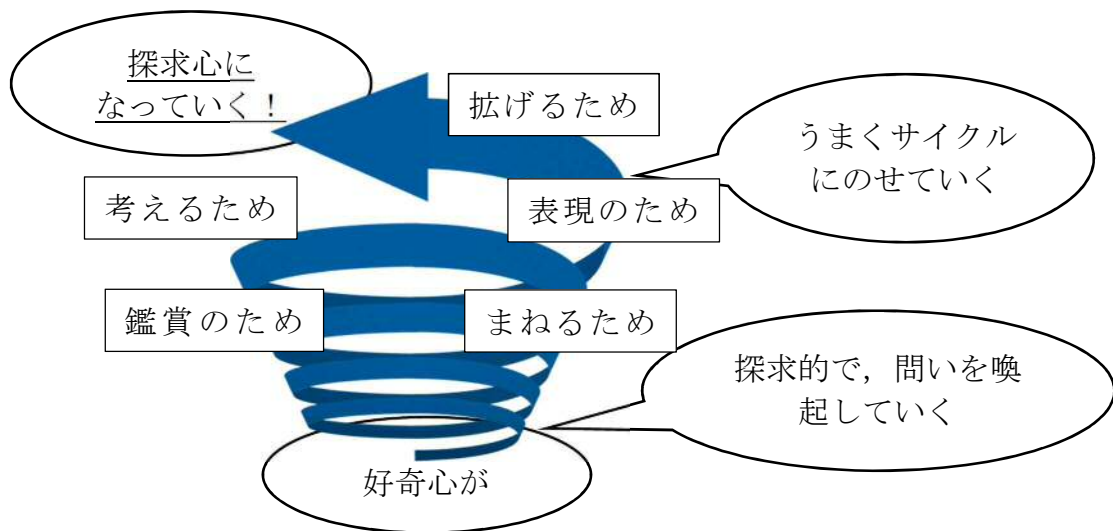
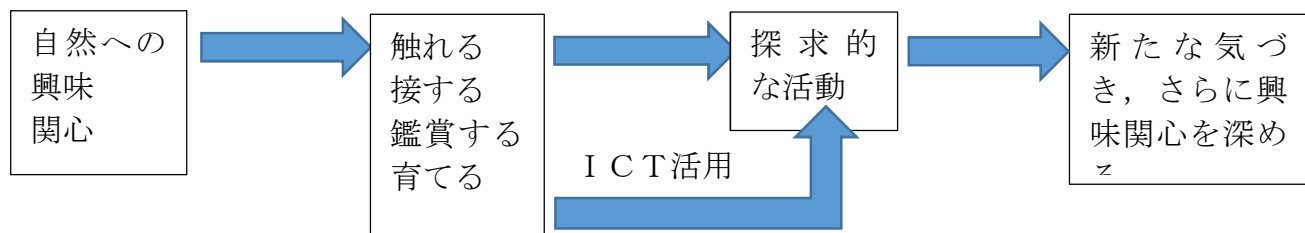
- ・ 見方や考え方を働かせながら、直接的、具体的な体験のなかで対象物と関わって、心を動かし、子どもなりのやり方で試行錯誤を繰り返す。楽しさや不思議さの追求や、問題解決にむけた探求的な学びの過程が実現できているか？→できることをやっていく。ちょっとした問いの工夫が大切である！

5 保育現場におけるICT活用

- 写真を撮影する
 - ・ 植物の生長過程を貼る。写真を説明してくれる子どもに思い入れが感じられる。振り返りや、写真をきっかけに出かけるチャンスになる。
- 動画撮影
 - ・ 仕草を撮影する。先生が撮っていたら子どもも撮りたくなる。
 - ・ 長期的観察でしか分からない、不思議さを得た時の充実感。それを広めたいと感じる経験
 - 社会的情動スキルにつながる
- 「特別な自然」にも広げる
 - ・ 身近でない自然にも目を向ける。カワウ、鶴など、子どもが興味を持った時に見せるのも良い。
- 1分間1回シャッター（インターバル撮影）
 - ・ チョウの羽化など、夜の間に撮影すると見ることができる。
- 草花の撮影「Googleレンズ」
- 「NHKキッズ」の利用
 - ・ 安全なNHK動画が集まってくる。昆虫や草花について見ることができる。保護者に勧めてもよい。
- 図鑑をつくる
 - ・ クラス図鑑作りやMYクラス図鑑コレクション作成。アプリで写真、コメントを入れる、宝物図鑑、など、色んな図鑑が作りたくなるかもしれない。

○ 星座を見てみよう「星座表」

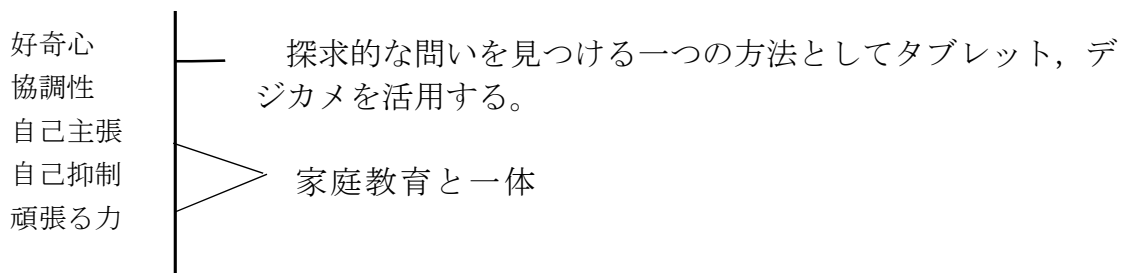
- ・ GPSがついているのでその日のその場所の星座が見られる。



6 保育における可能性

- ・ 2014年のICTの効果は：虫，植物，図鑑が人気という回答だった。
- ・ 2018年は，知識が豊かになる。歌や踊りが好きになる。小学校に役立つ。という回答だった。（小学校の早倒しをするのは不適切である。）
- ・ 2020年には：子どもの学びに向かう力を引き出す。という回答が出るようになる。

非認知的能力＝学びに向かう力（タブレットがきっかけとなった）



○ ねらいをもつこと！

- ・ 「与えてくれる」好奇心しか発動できなくなっている子どもに「求める」知的好奇心へ啓培していくことが重要！絶えず「何故？」「どうして？」という問いを喚起すること！
- ・ 先生は答えをためていてもいいが，子どもに考えさせることが大切！何故かな？と考え合わせること！→これが幼児教育の良さである！

- ・ 小学校以上のプレゼンテーションについて、自分の意見は言えるが、人の発表について感想を言うことが難しい現状。1，2年生のうちにペアトークやグループ発表などの、少人数で自分の経験を述べたり感想を言い合えたりする経験ができると良い。
- ・ 芦屋市でも何か一つ目標を持たせてもいいかもしれない。
「友だちの意見に感想が言える子ども」という目標設定や「ペアトーク」の時間を設けることなど。
- ・ 最後に…
子どもとメディアとの付き合い方はガラパゴス化するか？
強力な道具として使うか？という質問に対して

→「強力な道具として使う。」という答えの一択である。

第1回 令和3年4月23日 午後3時～

- 1 芦屋市立認定こども園・保育所におけるICT活用に係る経緯・経過について
 - ・ ICT活用の目的
小学校以降の学習環境及び社会状況の変化への対応
将来、より必要とされる必要な力（非認知能力、21世紀型スキル）の育成
市立就学前教育・保育施設が果たすべき役割の発信
- 2 令和3年度ICT関連予算について
- 3 本委員会の目的について
本委員会において就学前教育・保育におけるICT機器の活用に係る，
 - ・ 準備・考え方・効果などの検討，
 - ・ 整理・活用の方法
 - ・ 活用に係る課題・課題解決方法の検討
 - ・ 各種事例研究
 - ・ 研修企画・検討を行い，市立保育所・こども園への実行を伴うフィードバック，市立幼稚園・私立保育施設との協同，小学校への周知・連携の主導を目的とするもの。
- 4 今後のスケジュールについて
- 5 保育・教育への活用について

第2回 令和3年5月28日 午後3時～

- 1 市立施設で5歳児がプレゼンすることについての意見交換
- 2 各施設でのICT活用に係る状況・課題の共有
精道認定こども園・打出保育所から令和2年度のICT活用の具体的実践報告
- 3 5歳児年間計画の評価・検討
- 4 “Kits”のアプリ「アートポン」の使い方の紹介

第3回 令和3年6月23日 午後3時～

- 1 “Kits”アプリのデモンストレーション(株式会社スマートエデュケーション 久保氏)
- 2 全体ICT研修について

第4回 令和3年7月21日 午後3時～

- 1 ICTの活用事例の発表
 - ・ ダンゴムシをタブレットのカメラで撮影し足や背中模様など繊細な部分まで観察。その後、実際に絵を描き、身体で表現するなどの表現活動につなげる。
 - ・ 花の中身や生き物（カブトムシ、蚕、カエルなど）をタブレットで撮影し、細部を観察
 - ・ 青虫が，さなぎから成虫になる瞬間を，タブレットのカメラで撮影しクラスで観察
 - ・ 律動をしている4歳児クラスの姿を撮影し，3歳児クラスが動画を視聴
 - ・ アイスクリームの製作の際に，プロジェクターを使ってアイスクリームの画

像をみんなで見て、イメージを広げる。

- ・ アプリ（キット、ピッケ）を使用し、グループ活動を行う。
- ・ 夏野菜や生き物クイズ
- ・ 保育所での子どもの姿を家庭へ動画配信
- ・ 世界の遊びについて、子どもたちがインターネットを使って調べ、発表

第5回 令和3年9月10日 午後4時～

- 1 令和3年度ICT活用に係る報告書作成について
- 2 研究冊子を作成するにあたってのスケジュール確認

第6回 令和3年11月15日 午後3時～

- 1 タブレット運用上のルールについて
（個人情報保護）
 - ・ AirDrop 通常は“受信しない”に設定しておく
 - ・ iCloud バックアップはしない
 - ・ 他園所に貸し出す前に写真フォルダ等を空にする（ICTリテラシー）
 - ・ 写真の映り込みに注意（子どもが撮影する場合も同様）
 - ・ 各種アップデートは、全台一緒に行うため個別ではない
（セキュリティーアップデート・メジャーアップデート・2ファクタ認証など）
 - ・ ネットワークへの接続は必要な場合のみ

第7回 令和3年12月24日 午後3時～

- 1 令和3年度ICT活用に係る報告書について
- 2 私立保育施設への周知活動についての検討
- 3 次年度ICTの活動イメージについて

第8回 令和4年1月26日 午後3時～

第9回 令和4年2月14日 午後3時～

冊子について検討

公開保育案

- ・ 芦屋市立精道こども園

日 時	令和 3 年 1 0 月 2 8 日 (木) 9 時 3 0 分 ～ 1 0 時 1 0 分		
組 名	5 歳児 たいよう組 (男児 1 3 名・女児 1 0 名・計 2 3 名)		
保育者	水田 陽子 下井田 佳世		
ねらい	○ 「ピッケの作る絵本」のアプリを使って、お話の続きや、登場人物が話す言葉を友達と考え合うことを楽しむ ○ 友達の絵本を見て、アイテムや機能を取り入れ、自分達の絵本に生かそうとする気持ちをもつ。		
時 刻	環 境 構 成	予想される子どもの活動	配 慮
9 30	〈ランチルーム〉 ・ 机の上を広く使えるようにする ・ 友達の声が聞こえやすい場所の設定をする ・ タブレットが見やすいようにする	○ ペアの友達と一緒に座る ○ タブレットを受け取り、「ピッケの作る絵本」をたちあげる ○ 絵本作りを進める ・ お話に使うアイテムを探す ・ 友達の話やつぶやきを聞き、色や背景、大きさ、アイテムの組み合わせ方を取り入れ、工夫する ・ 登場人物の名前や性格、どんなことを話しているか等を考えながら操作する ○ 友達が作った絵本を見る ・ 感じたことを話す ・ 作った絵本のお話を伝える	・ 友達と一緒にお話の続きを作る気持ちになるように言葉を掛ける。 ・ 絵本作りが楽しみな気持ちに共感する。 ・ 子どもが自分達でお話を進めようとしている姿を受け止め見守り、必要に応じて言葉を掛ける。どんなことを考えて作っているか、気持ちを読み取る。 ・ 分からないことやイメージするアイテムが見つからない時子ども同士が教え合う機会にする。 ・ 子どもがお話を伝えようとする気持ちを受け止め、汲み取って話したり、子どもの言葉を繋げたりする。 ・ 続きを作ることに期待がもてるように話す。
見てほしいところ ・ タブレットを操作しながら、お話のイメージを共通にしたり、アイテムを使って工夫しようとしていたりしているか。 ・ 友達の絵本を見合い、“もっとやってみたい”と意欲が湧いているか			

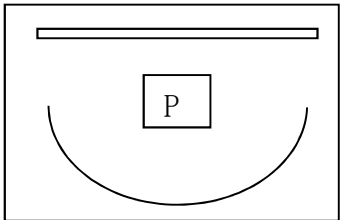
・ 芦屋市立西蔵こども園

日 時	令和 3 年 6 月 23 日 (水) 9 時 30 分 ~ 10 時 30 分		
組 名	5 歳児 らいおん組 (男児 8 名・女児 10 名・計 18 名)		
保育者	藤原弘美 中川朋美		
ねらい	○ 自分の国の民族衣装を着てランウェイを歩く楽しさを感じる ○ 友達と見合うことを楽しみ、それぞれの良さを見つける		
時 刻	環 境 構 成	予想される子どもの活動	配 慮
9 20	・ 民族衣装の写真や絵本、国旗カード、地球儀、世界の絵本をコーナーに配置しておく ・ 担任の話が聞きやすく、ソーシャルディスタンスが取れる位置に椅子を配置する	○ 朝の会の準備をする ・ 手洗い・水分補給 ・ 歌をうたう (♪七夕さま) ・ 昨日の活動を振り返り、今日の活動の予定を知る ・ タブレットの使い方を確認する	・ 手洗いや、ソーシャルディスタンスが意識できているか見守る ・ 発表したり、質問したりしながら昨日の活動が欠席児へも伝わるように配慮する ・ 全員がタブレットを操作する経験が出来るよう準備
9 30	・ 友達と協力し合って準備が進められるようにハンガーや箱を用意しておく	○ ファッションショーに向けての準備をする ・ 衣装を身に着ける ・ 手伝いを仕合ながら準備をする	・ それぞれの得意なことを認め自信につなげるようにする ・ 衣装の破損した時は子どもと補修方法を一緒に考える
9 45	・ ファッションショーの雰囲気が盛り上がるよう BGM の準備、色々な国旗を飾っておく ・ 他クラスに参加協力を呼びかけておく ・ 写真を撮るためのタブレットを準備	○ ファッションショーを開く ・ ランウェイを歩き、写真を撮ってもらう ・ 写真を撮る (タブレット) ・ 友達に声援を送る ・ みんなで記念写真を撮る	・ 友達などから認めの言葉が伝わるように仲介する ・ 一人で歩くことに抵抗がある児の気持ちも受けとめながらその児にあった表現の方法を一緒に考える
10 20	・ みんなで集まりファッションショーの感想を伝え合う時間を取り、思いを共有できるようにする	○ 振り返りの会をする ・ 持ち帰る準備 ・ 他クラスへ感謝を伝える ・ ファッションショーの感想を伝え合う	・ 明日のプレゼンテーションに向けての期待が持てるように伝える
見てほしいところ ・ 一人ひとりの良さを認めあえるような活動になっているか。 ・ 明日のプレゼンテーションに向けて工夫しておくべきことや配慮すべきことがあれば教えてほしい。			

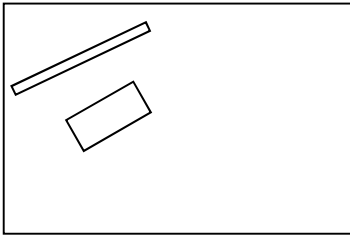
・ 芦屋市立岩園保育所

日 時	令和 3 年 8 月 2 4 日 (火) 9 時 3 0 分 ～ 1 0 時 2 0 分			
組 名	5 歳児 つき組 (男児 1 0 名・女児 1 0 名・計 2 0 名)			
保育者	浜木 望			
ねらい	○ 友達と相談しながら遊びを進める楽しさを味わう ○ I C T 機器を身近に感じる ○ 友達と力を合わせてすることの満足感を味わわせ次への意欲を育てる			
時 刻	環 境 構 成	予想される子どもの活動	配 慮	
9 30	・ 5 歳室にプロジェクター等, 活動に必要な機器を用意しておく。 ・ 5 歳室に潜水艦を置いておく。 ・ 共同室に旗を飾り, BGM を流し, 進水式が盛り上がるようにする。 ・ 海や海中の動画を流す。	○ 朝の会をする ・ 当番活動をする ・ 当日の予定を聞く。 ○ 進水式をする。 ・ 潜水艦を共同室に運び出す ・ 歌を歌う ・ それぞれ配置につき, 合図を聞いて動く ・ 2 ～ 4 歳児に祝ってもらう。 ○ 遊び方 (順番) や航路を相談する。 ○ 船の準備をする。 ○ 潜水艦ごっこを始める ・ A, B チームに分かれて遊ぶ (交代) ・ 船長, 航海士などの係になる ・ それぞれの役割が連携しながら遊ぶ ・ 調査員が魚を発見し, 知らせる	・ 部屋の使い方を工夫し, 子どもが自ら準備ができるようにする。 ・ 自信や見通しが持てるよう, 流れを説明する。 ・ 子ども同士, 息を合わせて動けるよう, 先導し, 危なくないように見守る。 ・ 進水式が楽しい雰囲気に進むよう, 他のクラスに協力してもらい, 雰囲気作りをする。 ・ 一人ひとりが自分の言葉で参加できるよう, 後押しする。 ・ 役割をはっきりさせ, 迷った時には簡潔にアドバイスする。 ・ 自分の調べたことを友達にしっかり伝えられるよう見守る。	
9 40		○ 遊びを振り返る ・ 感想を伝えあう。 ・ うまうまかなかったところを話し合う。	・ 楽しかったことだけでなくしっかり振り返ることによって, 次につなげる。	
10 10	・ 友達の顔が見えるように椅子を並べ替える。			
見てほしいところ ・ 子ども同士で遊びを進められているか? また, 進められるよう, 適切な声掛けを担当が行っているか?				

・ 芦屋市立打出保育所

日 時	令和3年 10月 29日 (金) 9時 30分 ～ 10時 00分		
組 名	5歳児 きく組 (男児 12名・女児 11名・計 22名)		
保育者	志熊 亜美, 山田 千景		
ねらい	○調べたことや自分の考えを相手に分かるように伝える。 ○『たつのこたろう』に出てくる昔の生活について知る。		
時 刻	環 境 構 成	予想される子どもの活動	配 慮
9 30	・ 遊戯室にタブレット、プロジェクター等活動に必要な機器4揃えておく。	○ 遊戯室に自分の椅子を運び着席する。 ・ スクリーンを見て活動に期待を寄せる子どもがいる。 ○ プレゼンテーションの流れを聞く。 ・ 質問する子どもがいる。 ○ グループごとに呼ばれ、プロジェクターの横に出る。 ○ 名前を呼ばれ前に出て、調べてきたことや友達に伝えたいことを発表する。 ・ 子どもは、自分の発表内容をスクリーンに映す。発表後、友達にタブレットを渡す。 ・ 友達に拍手をもらう。 ○ プレゼンテーションについての感想を伝え合い、全員で振り返る。 ○ 次回への活動に期待を寄せる。	・ スクリーンが見えやすいように席の位置を確認する。 ・ 正しい姿勢で着席している姿を認めることで、聴く習慣を身に付けられるようにする。 ・ 流れが分からない子どもがいる時には、活動の流れが書かれているボードを見ながら一緒に確認し、見通しをもてるようにする。 ・ 前に出て発表できたことを十分認め、達成感を味わえるようにする。 ・ 発表内容や聴いている子どもの新たな発見のつぶやきを受け止め、理解を深められるようにクラス全体で共有する。 ・ 気づきをクラス全体で共有できるよう、子どものつぶやきや発見した表情を汲み取る。
40	配置遊戯室 		
10 00	・ 集中して話を聴けるように、機械や保育者の立ち位置を工夫する。また、見通しをもって参加できるようにボードに活動の流れを書いておく。 (・感染症対策のため、タブレットを次の人に渡す前には消毒をする。) ・ 拍手を送る機会を作り、友達の話に耳を傾けられるようにする。		
見てほしいところ 絵本の内容について調べたこと、友達に伝えたいことを子ども自身がタブレットに取り込み、プレゼンテーションに活用しました。ICTの活用方法については、別の用途があれば教えてください。			

・ 芦屋市立緑保育所

日 時	令和4年 1月 25日(火) 9 時 30分～ 10 時 15分		
組 名	5 歳児 びわ組(男児 7 名・女児 12 名・計 19 名)		
保育者	上條 観耶 橋爪 千翔里		
ねらい	○ 描いてきた鬼について自分の考えを相手に分かるように伝える ○ 一人ひとりの気持ちを受け止め、主体的に話せるようにする		
時刻	環境構成	予想される子どもの活動	配 慮
9 : 30	・ 室内にタブレット、プロジェクター等、活動に必要な機器を揃えておく。	○ スクリーンを見て活動に期待を寄せる子どもがいる。 ○ 活動の流れを聞く。 ・ 質問する子どもがいる。 ○ 自分の椅子を運び着席する ○ プレゼンテーションの流れを聞く。 ・ 質問する子どもがいる。 ○ プロジェクターの横に出る。 ○ 前に出て、調べてきたことや友達に伝えたいことを発表する ・ 発表する子どもは自分で発表内容をスクリーンに映す。 ・ 発表が終われば、次の友達の名前を呼ぶ。 ○ プレゼンテーションについての感想を伝え合い、振り返る。 ○ 次回への活動に期待を寄せる。	・ 流れが分からない子どもがいる時には、ボードを見ながら一緒に確認し、見通しをもてるようにする。 ・ スクリーンが見えやすいように席の位置を確認する。 ・ 正しい姿勢で着席している姿を認めることで、話を聞くことを身に付けられるようにする。 ・ 前に出て発表できたことを十分認め、達成感を味わえるようにする。 ・ 発表内容や聴いている子どもの新たな発見のつぶやきを受け止め、理解を深められるようにクラス全体で共有する。 ・ 気付きをクラス全体で共有できるよう、子どものつぶやきや発見した表情を汲み取る。
9 : 40	5歳児室 		
10 : 15	・ 集中して話を聴けるように、機器や保育者の立ち位置を工夫する。また、見通しをもって参加できるようにボードに流れを書いておく。 ・ 拍手を送る機会をつくる。		
見てほしいところ ・ 子どもへの声の掛け方、保育者の立ち位置などは適切でしたか。 ・ 子どもが主体的に話することができるよう援助できていましたか。 その他気になることがあれば教えてください。			

・ 芦屋市立大東保育所

日 時	令和 3 年 9 月 2 日 (木) 9 時 3 0 分 ~ 1 0 時 3 0 分		
組 名	5 歳児 ひまわり組 (男児 8 名・女児 9 名・計 1 7 名)		
保育者	中原 安伊菜		
ねらい	○ 友達と協力して出来上がった映像を見て、満足感をもつ ○ 自分たちの頑張りを言葉で伝えたり、友達の頑張りが良さに気づき、伝えようとする		
時 刻	環 境 構 成	予想される子どもの活動	配 慮
9 30	・ 声が遠くまで届くよう、少し上を見ながら歌うことを意識できるように、壁に目印をつけておく 〈準備物〉 ・ プロジェクター ・ スクリーン ・ 机 ・ タブレット 1 台 ・ スクリーン、プロジェクターは事前に用意し、すぐに出せるようにしておく ・ 活動に集中しにくい児には、見やすく参加しやすい席に座るようさりげなく声をかける	○ 朝の会をする ・ 今日の予定を知る ○ 歌を歌う ♪おはようのうた ♪パレード	・ 見通しが持てるよう伝える ・ 歌詞の意味を理解し、のびのびと表現する姿を認める
9 55		○ 撮影した動画(ペープサート劇)を見る ・ ペープサート劇の仕上がり期待をもつ ・ 完成した映像を見て喜ぶ ・ 映像に集中しにくい児がいる ○ 頑張った所、工夫した所を発表する ・ 1 グループずつ前に立って1人ずつ発表する ・ 前で発言する緊張で、中々言い出せない児がいる ・ グループの良い所、面白い所を伝え合う	・ 座っている姿を認めつつ、他児も意識できる雰囲気づくりをする ・ 協力して1つのものを作り上げた喜びを感じられるようにする ・ 話が聞きにくい児には、アイコンタクトを取るなど活動の参加を促していく ・ グループごとで発表し、友達が隣にいる安心感を感じられるようにする ・ 他のグループの友達の頑張りを知り、子ども同士で認め合えるようにする ・ 明日の活動を伝え、期待をもたせる
見てほしいところ・ ・ 全体的に話を聞く姿勢が作りにくかったり、活動に集中して参加する姿に差が大きかったりすることがクラスの課題であると感じています。話が聞きやすい雰囲気づくりや指示の仕方はできていたのでしょうか。 ・ I C T機器を利用して、友達と同じ目的に向かって活動に取り組んでできました。I C Tの活用の仕方、子ども同士の関わりを大切に活動についてアドバイスを頂きたいです。			

いかがだったでしょうか。

「はじめに」にありました、

- ・ ICTの活用は、子どもの21世紀に生きる力の基礎を育てる！
- ・ どうやってICTを使うの？
- ・ 子どものどういった成長に役立つの？
- ・ 子ども達がICTを使いこなせるの？うまく関われるの？

は、確認いただけましたでしょうか。

- では、それぞれの点について触れていきたいと思いますが、まずは分かりやすい、「子ども達がICTを使いこなせるの？うまく関われるの？」から触れていきたいと思います。

子ども達の様子については、各活動事例から子どもがスムーズにICTに関わっている様子は十分感じていただけたのではないのでしょうか。また、楽しげに関わっている様子も感じていただけたのではないのでしょうか。

子ども達が、各事例において楽しげな様子であったということは、保育所・認定こども園での教育の形である「遊び・体験を通した学び」が成立するための大前提がICTを活用した活動においても成立していることが確認されているということです。

子どもがICTを活用した活動に興味を持って取り組み始めるであろうことは、結果を見るまでもなく予想できたことではありました。子どもは、大人たちスマートフォンやタブレットを使っている姿を毎日のように見えていますし、時には子ども自身がそれらを手に取って動画視聴、ゲームなどを行っているからです。しかし、実際に取り組んでいく際には、「・・・と思う」と、「・・・ということが確認できた」では、やはり、差があり、今回の取組を通して、「確認できた」ということは有意義なことだったと考えています。

- 次に、「どうやってICTを使うの？」ですが、どのように感じられたでしょうか？
- ・ 「思った通りだった。」
 - ・ 「どう活用するのかなと思っていたら、こういうことか」
 - ・ 「簡単だ！」
 - ・ 「そういった方法か！」
 - ・ 「アプリを使うのはちょっと・・・」

など、それぞれの方にそれぞれの感じ方があったのではないのでしょうか。

今まで、ICTを活用した実践を行おうとする際に動き出しにくい要素の1つに、「ICTを活用するといっても、実際どう活用したらいいのか・・・」ということがありました。

今回、本誌で取り上げた活動は、見た目は違っていても骨格は共通しているものが多く、それはシンプルで分かりやすいものばかりではなかったでしょうか。

形式的な面では、

- ・ タブレット・プロジェクターの活用
- ・ アプリの活用

具体的な活動面では、

- ・ 1台のタブレットを複数人で利用
- ・ 複数人で協同する作業
- ・ プレゼンテーションにつながる形態

などが共通項として見出されるのではないのでしょうか。

これらの共通項については、ICTの活用に係る1つの典型的な形態ではないかと考えています。

なお、これら活動面については、当然のことですが、活動を通したねらい・目的をどのようなものとして計画するかによって、まったく異なる形態はいくつでも存在しえます。本誌における典型的な形態は、あくまでも掲載した活動における形態に過ぎないものをご理解ください。

○ 次に、「子どものこういった成長に役立つの？」については、いかがでしたでしょうか。

それぞれの活動の内、共通している点を抜き出しますと、

- ・ 表現
- ・ 他人との関係性
- ・ コミュニケーション
- ・ 広い意味のICTリテラシー

他にもありますが、こういった子どもの学びにつながることを確認いただけたと思います。

ただ、ここで、「ICTリテラシー以外の学びは、何もICTを活用しなくても他の活動でも、今までやってこれたし、十分子どもが成長してきている！」というご意見は十分理解できます。

本誌の実践事例には入れませんでした。いわゆるリモート活動という活動も行っていますが、これについては、さすがにICTの独壇場かと思いますが、表現などはICTを活用せずとも実践できます。

ではなぜ、表現にICTを活用したのか、その理由としましては、ICTには「繰り返し・修正・工夫」が行いやすいという特性があります。その特性を活かすことで、表現手法が十分でない子どもが、それが原因で表現できないということではなく、そういった部分のハードルを引き下げることによって、表現を豊かにしていく、工夫する経験を増やすということをねらうことができるからです。

その他の活動についての理由も、同様の主旨に基づいたものです。

しかし、1点ICTを活用する活動を行う上で注意していることがあります。
それは、

- ・ 従来からの活動も大切にし、バランスを取ってICTを活用する。

ICTの活用は、それ自体が目的ではありません。活用することにより、その特性を活かし、子ども達が様々な学びを深めていくことが目的です。ですので、従来の活動には活動の良さがあり、ICTにはICTの良さがあるので、それぞれのバランスを取りながらより良い教育・保育につなげるバランス意識をもって取り組んでいます。

- 最後の「ICTの活用は、子どもの21世紀に生きる力の基礎を育てる！」については、まず、21世紀をどのように見るかというところが入り口になります。

21世紀を見通す表現は様々ですが、「不透明さを増す」ということがよく言われています。現在、日々起きている出来事を見ていると、これを是認する方が多いのではないのでしょうか。

そういった21世紀を過ごしていく子どもにどういった力の基礎の育成が必要かということについては、市立認定こども園・保育所において、国が定める「認定こども園教育・保育要領」などの内容を前提に、いわゆる21世紀型スキルなども合わせて検討し、協働性、自己肯定感、表現力、ICTリテラシーなどであると整理しています。

これらに係る教育・保育の実施にICTが持つ特性（「ICT活用に係る目的・理由・方針」参照）を活用することで、より効果的な学びにつながるものと考えています。

しかしながら、この観点を評価する難しさは、どのような力の基礎の育みが必要と考えるかという点と、それに対するICT活用の効果という点の両方を考えるところにあります。

ICTの活用が21世紀を生きる力の基礎の育成につながるかどうか、効果的であるかどうかに対しては、読者の方々が各事例をご覧いただき、評価いただきたいと思います。

市立認定こども園・保育所におけるICT活用は、まだまだより良いものを目指し、取り組みを進めていく必要があるものです。ICT活用においては、体などへの影響を指摘するような情報もあります。そういった部分についても注意を払いながら、ICTの活用方法や、活用程度を保育者が調整しつつ、よりよい子どもの成長につなげる教育・保育を行っていきたいと考えています。

最後になりましたが、多くの方々にご指導・ご協力をいただきましたことに深謝いたしますとともに、引き続きご指導等お願いいたします。

令和4年3月

芦屋市ICT活用検討委員会 委員 一同

芦屋市立こども園及び保育所 I C T活用検討委員会設置要領

(目的)

第1条 この要領は、本市認定こども園及び保育所における就学前教育・保育の質の向上を図り、子どもの最善の利益に資するため、就学前教育・保育において I C T 機器を活用するに当たり、その活用に係る各種検討等を行う委員会を設置するために必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 市立認定こども園及び保育所に勤務する施設長又は副施設長
- (2) 市立認定こども園及び保育所に勤務する保育士又は保育教諭
- (3) 市立認定こども園及び保育所を所管する部署に属する職員
- (4) その他委員会が必要と認める者

(協議等事項)

第3条 委員会は、主として I C Tに係る次の事項について協議等を行う。

- (1) 市立認定こども園及び保育所における就学前教育・保育への活用に関すること
- (2) 事例紹介・研究に関すること
- (3) 研修に係ること
- (4) 制度・状況の共有に関すること

(開催)

第4条 委員会は、月1回程度開催する。ただし、開催については、委員会において開催回数等を調整することができる。

(その他)

第5条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項については、委員会で協議して定める。

附則

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

芦屋市立こども園及び保育所 I C T活用検討委員会委員

委 員

西 尾 裕 子	市立西蔵こども園	園長
内 藤 純 子	市立精道こども園	副園長
中 本 香代子	市立岩園保育所	副所長
古 閑 弘 美	市立精道こども園	保育教諭
渡 部 幸 恵	市立西蔵こども園	保育教諭
樋 口 夏 実	市立西蔵こども園	保育教諭
荒 木 真由美	市立岩園保育所	保育士
吉 田 真 菜	市立打出保育所	保育士
上 條 観 耶	市立緑保育所	保育士
中 原 安伊菜	市立大東保育所	保育士

事務局

伊 藤 浩 一	こども・健康部主幹（施設整備担当課長）
池 永 直 子	こども・健康部子育て推進課保育係長
東 谷 眞須美	こども・健康部子育て推進課
林 浩 子	こども・健康部子育て推進課

（以上，順不同）

